

Mommy

マミー

監督：二村真弘 ・ プロデューサー：石川朋子　植山英美（ARTicle Films）
撮影：高野大樹　佐藤洋祐 ・ オンライン編集：池田聡 ・ 整音：富永憲一 ・ 音響効果：増子彰
音楽：関島種彦　工藤遥 ・ 製作：digTV ・ 配給：東風
2024年 ・ 119分 ・ DCP ・ 日本 ・ ドキュメンタリー ・ ©2024digTV

mommy-movie.jp

母は、
無実だと
思う。

和歌山毒物カレー事件から
26年目の挑戦



和歌山毒物カレー事件——

1998年7月、夏祭りで提供されたカレーに猛毒のヒ素が混入。67人がヒ素中毒を発症し、小学生を含む4人が死亡した。犯人と目されたのは近くに住む林眞須美。凄惨な事件にメディア・スクラムは過熱を極めた。自宅に押し寄せるマスコミに眞須美がホースで水を撒く映像はあまりにも鮮烈だった。彼女は容疑を否認したが、2009年に最高裁で死刑が確定。今も獄中から無実を訴え続けている。

事件発生から四半世紀、最高裁判決に異議を唱える。

本作は「目撃証言」「科学鑑定」の反証を試み、「保険金詐欺事件との関係」を読み解く。「まあ、ちょっと、どんな味すんのかなと思って舐めたわけ」とヒ素を使った保険金詐欺の実態を眞須美の夫・林健治があけすけに語り、確定死刑囚の息子として生きてきた林浩次(仮名)が、なぜ母の無実を信じるようになったのか、その胸のうちを明かす。林眞須美が犯人でないのなら、誰が彼女を殺すのか？ 二村真弘監督は、捜査や裁判、報道に関わった者たちを訪ね歩き、なんとか突破口を探ろうとするのだが、焦りと慢心から取材中に一線を越え…。

映画は、この社会の
でたらめさを暴露しながら、
合わせ鏡のようにして、
私たち自身の業や欲望を映し出す。

不思議な映画だ。
何重にも入れ子構造になったテーマが見る者を惑わせる。
冤罪告発、息子と母の関係、不可思議な家族に加えて、
監督自身が大きな存在としてせり出している。
一度も画面に登場しない林眞須美が真の主役かもしれない。
一筋縄ではいかない本作は、ドキュメンタリーのあり方を
根底から問いかける問題作となるだろう。

信田さよ子（公認心理師）

衝撃的な「映画」だ。事件の当事者の人々の、語る内容はもちろん、
その語り口、声、身体は、こちらの安易な予断を悉く裏切っていく。
家族の、親子の、夫婦の、人間の計り知れなさ。
膨大な時間の中の絶望と、しかし、それに抗う力を感じた。

押見修造（漫画家）

多くの人が「その話はもうやめてくれ」と逃げる。
なぜ、逃げるのか。
なぜ、カメラの前で語らないのか。
各人の後ろめたさが渦となり、問いかけてくる。

武田砂鉄（ライター）

この映画はスクープだ。
そして誤解を恐れず言えば、痛切なるエンタメ作品だ。
取材の深さはもちろん、撮影・構成・編集などの表現力も一級品。
同業者として脱帽、と同時に嫉妬した。

大島新（ドキュメンタリー監督）

mommy-movie.jp
mommy_movie2024